

会 議 録

会議の名称		令和6年度つくば市バースセンターに関する懇話会		
開催日時		令和7年1月29日(水) 18:30~20:30		
開催場所		つくば市役所2階 防災会議室3		
事務局(担当課)		健康増進課		
出席者	委員	黒田勇二(なないろレディースクリニック理事長) 前島正基(前島レディースクリニック院長) 間野聡子(市民委員) 篠崎紗由美(市民委員)		
	事務局	木本課長、川崎統括、飯野係長、久保田係長、三輪保健師、 國府田主事		
公開・非公開の別		■公開 □非公開 □一部公開	傍聴者数	2人
非公開の場合はその理由				
議題		①バースセンター再整備について ②バースセンターの利用状況について ③総合周産期医学給付研究部門寄付講座の状況について		
会議録署名人	—	確定年月日	令和	年 月 日
会議次第	1 開会 2 黒田座長挨拶 3 バースセンターに関する報告 (1)バースセンター再整備について (2)バースセンターの利用状況について (3)総合周産期医学給付研究部門寄付講座の状況について			

様式第 1 号

	4 報告に関する質疑応答
	5 閉会

<報告事項>

川崎統括保健師	<p>1 開会</p> <p>それではお時間になりましたので、始めさせていただきたいと思えます。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の進行を努めさせていただきます健康増進課統括保健師の川崎と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日の懇話会にあたりまして、ご報告をさせていただきます。</p> <p>本懇話会は、つくば市附属機関の会議及び懇談会の公開に関する条例第 3 条に基づき公開とさせていただきます。</p> <p>また、議事録を作成いたしますので、録音させていただきます。あらかじめご了承くださいませようよろしく願いいたします。</p> <p>それではただいまから令和 6 年度つくば市バースセンターに関する懇話会を開会いたします。</p> <p>また開会にあたりまして、昨年度より委員 2 名が変更となりましたので、ここにご報告をいたします。</p> <p>人事異動によりまして、茨城県つくば保健所の所長が本多めぐみ様になりました。</p> <p>また、議員改選によりまして、つくば市議会議員が伊藤文弥様になっております。</p> <p>なお、こちらの委員 2 名は所用により本日は欠席となっております。</p>
---------	---

黒田委員（座長）	<p>ます。</p> <p>それではこれから議事に入りたいと思います。</p> <p>黒田座長様よろしくお願ひいたします。</p> <p>2 黒田座長挨拶</p> <p>よろしくお願ひいたします。黒田でございます。</p> <p>皆様のご協力により円滑に会議を進めて参りたいと思います。</p> <p>では議事の報告に移ります。1番から3番までの報告を事務局からお願ひいたします。</p>
飯野係長（事務局）	<p>3 バースセンターに関する報告</p> <p>(1) バースセンター再整備について</p> <p>健康増進課飯野と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>初めに①番のバースセンター再整備についてご報告いたします。</p> <p>資料1と新バースセンター旧バースセンターの平面図を2枚つけさせていただいておりますので、そちらの3枚をご覧ください。</p> <p>令和6年8月1日、再整備完了に伴い、筑波大学附属病院において、バースセンター全面供用開始報告会及び内覧会を開催いたしました。</p> <p>本センターはすべて個室で12床構えており、すべての部屋がLDRで陣痛、出産、産褥期を同室で行える施設を有しており、部屋で家族の立ち会い出産が行えるようになりました。</p>

	<p>さらに、NICU 新生児集中治療室及び GCU 新生児回復室も 6 床ずつ増やし、同じ建物内で速やかに移動できる動線を確保するなど、出産後のケア体制の充実にも努めています。</p> <p>また、全面供用開始報告会終了後、3 億円を筑波大学附属病院に対し寄付いたしました。</p>
飯野係長（事務局）	<p>(2) バースセンターの利用状況について</p> <p>続いて②番のバースセンターの利用状況についてご報告いたします。資料 2 をご覧ください。</p> <p>バースセンターの利用状況については、令和 5 年の分娩数が 87 件で、そのうちつくば市民 76 件です。</p> <p>令和 6 年は分娩数が 67 件で、つくば市民が 60 件。</p> <p>そのうち再整備前は分娩数 41 件、つくば市民 36 件。8 月 19 日以降の再整備後は分娩数が 26 件、つくば市民 24 件となっております。令和 5 年、6 年ともに減少傾向となっております。</p>
久保田係長（事務局）	<p>それでは次に資料 3 についてご説明させていただきます。</p> <p>こども未来センターにおります保健師の久保田と申します。</p> <p>こども未来センターですが、令和 6 年 4 月から今までは保健部の健康増進課で母子保健事業をやっておりましたが、組織の改編で、こども部に移動しまして、児童福祉部門と一体化したこども未来センターで母子保健事業を実施しております。</p> <p>それでは資料 3 の令和 5 年度赤ちゃん訪問調査時における市民の出産場所等に関するアンケート調査をご覧ください。</p> <p>こちらのアンケートですが、赤ちゃん訪問のときに産婦さんに電子申請でアンケートを依頼しまして、回答していただいている</p>

ものになります。

こちらは令和5年度のアンケートの報告になりますが、赤ちゃん訪問の件数が2281件、令和5年度は行っておりますので、回収件数の1764件は77%の回収率というところになっております。

その前に、出生数についても触れておきたいと思います。

こちらの茨城統計情報ネットワークというサイトの方から毎年出生数をつくば市でも確認をしておりますが、令和4年が2178、出生率が9.1となっておりまして、令和5年になりますと、マイナス84出生数が減って2094、出生率が8.6ということでこちらも0.5ポイント下がっております。

ただ、県内では出生率、出生数ともに一番高い状況ではあります。それではアンケートの結果ですが、出生した医療機関の場所というところでとった結果によりまして、市内が68.5%ということになっております。令和4年度が66.6%だったのでほぼ同じような状況になっております。

そして、出産した市内の医療機関につきましては、市内の方で答えた結果だと、ほぼ半分がなないろレディースクリニックさんでなないろモアバースさんを足すと6割を超えているという形になっております。

そしてつくば市内の方が市外県外医療機関で出産した理由として、1番多いのが里帰り出産というところでしたが、市内で予約が取れなかったと答えた方が2番目に多く29名おりまして、その中でもどこで出産の予約を取りたかったですかという質問だと、なないろレディースクリニックさんで出産したかったと答えた方が28名というような結果になっております。

そして平成26年度から令和5年度の市内で予約が取れなかった方の割合についてです。こちら右側のグラフの方ですけれども、令和4年度となっておりますがこれは平成26年度から令和5年度の間違いになります。すいません。修正をお願いいたします。こちらの指標ですが、2020年から2024年度のロードマップの評価指標にもなっておりまして、見ていただくと、令和5年度には5.2%となっております、市内で予約をとれなかった人の割合は減少してきているというような状況になっております。以上になります。

(3) 総合周産期医学給付研究部門寄付講座の状況について

飯野係長（事務局）

続きまして③番の総合周産期医学給付研究部門寄付講座の状況についてご報告します。

総合周産期医学寄付研究部門寄付講座につきましては、教授、准教授、講師、事務職員の4名体制で運営することになっておりますが、令和4年度は9月から准教授が不在となり、4月までは教授と講師事務職員の3名体制となっております。令和5年度では、5月から8月までは、講師が1名追加され、教授講師2名、事務職員の4名体制となり、9月からは講師3名、事務職員の4名体制となりました。また令和6年度は4月から7月までが講師2名、病院助教事務職員、8月からは教授講師2名、事務職員の体制となっております、年度内はこの体制のままになるとのことです。令和4年9月から2年以上准教授が不在となっている状況です。

4 報告に関する質疑応答	
黒田委員（座長）	ご報告ありがとうございます。続いて質問と意見交換に移りたいと思います。
飯野係長（事務局）	初めに事務局からの報告を踏まえ、何かご質問はありますでしょうか。
黒田委員（座長）	市で認識している課題とかありますでしょうか。
前島委員	市では、バースセンターの出産数が減少していることや、2年以上准教授が不在になっていることが課題だと考えています。
黒田委員（座長）	また、准教授が不在になっても寄付講座が実施できていることを考えると、寄付講座の人員の見直しも必要ではないかと思えます。
前島委員	このことに対して何かご意見ありますでしょうか。
前島委員	前島先生いかかでしょうか。
前島委員	前島レディースクリニック前島です。よろしくお願いいたします。
前島委員	当初バースセンターをやるときに多分市としての思いがあったと思いますが、このバースセンターの設立に期待したことはどういふものなのかなというのはまず伺ってみたいなと思います。バースセンターの目的としては、妊婦さんが自主的にみずから出産や育児に取り組めるということを目的にされたかと思いますが、設置目的といたしましては妊娠初期から産褥期まで継続的に関わることで妊産婦が主体的に妊娠出産育児に臨めるように、妊娠出産に対する危険度が低い妊産婦さんを対象に助産師が中心となって妊娠出産育児をサポートすることだと思います。
前島委員	医師立ち会いのもとで出産できる環境を提供することを目的

	<p>としてあげているようですが、それに関して当初の市の予定としてはどのぐらいの分娩数を想定していたのでしょうか。その目標をもとに結果を見て、その意味っていうのを考えてみたいと思うのですが、当初の予定っていうのはどのくらいだったのでしょうか。</p> <p>当初バースセンターを開設した経緯としましては、市立病院がなくなり、その時のアンケートの中で出産環境の部分、産める場所が市内に少なかったというところがスタートとなっております。</p> <p>また当初筑波大学と話し合いをしながら、より良い環境を整えれば、出産していただく方が増えていくだろうという予測がありました。12床になれば、当然市内で希望した方全員が産めるだろうという予測のもとスタートしたという経緯がございます。</p> <p>詳しい当時の資料が残っておりませんので、先ほど先生からお話あった、何人ぐらいというのはデータとしては持ち合わせておりませんが、目的としましては増床することによって、市内で産むことができない5.2%人がゼロになるというような期待を込めております。</p>
木本課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>この5.2%という割合はまだ多いという評価よろしいのでしょうか。</p>
前島委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>この5.2%という割合はまだ多いという評価よろしいのでしょうか。</p>
久保田係長 (事務局)	<p>こども未来センター久保田です。</p> <p>実は令和5年から、よりつくば市内で予約が取れなかった方の数を取りやすいよう、アンケートを詳細にした結果で、5.2%、29名の方がいらっしゃいます。</p> <p>ただこのアンケートに答えてない方の中にも、もしかしたら予</p>

様式第1号

	<p>約をとれなかった方がいらっしゃるかもしれないというところもあるので、多いか少ないかの判断が難しいです。ただ、この値がよりゼロに近づくようには、こちらも目指していきたいと思っております。</p>
前島委員	<p>前回のミーティングのときのデータが令和4年のときで、市内で予約が取れなかったという方が8.3%で5.2%に減っています。一般論的にはかなり満たしているのではないかという評価をしますが、昔ならよくあったようなたらいまわし状態とかっていうものを危惧されて、多分このような設定をしたのだと思います。そういったお産難民の方はそんなに増えていないと僕は理解しました。そのため目標は達しているのかなという気がします。</p> <p>もう一方で、分娩数が減っていく中で、バースセンターを維持していくことに意味があるのかどうか。この辺が意見の分かれるところといたしますか、対象になるところかと思えます。最初の目的である一般市民の方たちが自主的に出産をできるという点を考えますと、バースセンターで自主的に産むことができよかつたとかそういう一般市民の意見を聞いてみたいなと思いました。一般の方からの意見をアンケート調査で取れるといいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
久保田係長 (事務局)	<p>こども未来センター久保田です。</p> <p>頂いたご意見に対しては、持ち帰って検討させていただければと思います。</p>
前島委員	<p>今のところ実際に利用された方の意見っていうのはまだ徴収できてない感じなのではないでしょうか。</p>
久保田係長 (事務局)	<p>アンケートの中では自由記載もありますので、そちらで出産に対してこうだったとか、妊娠中こうだったというようなご意見は</p>

様式第1号

前島委員	<p>聞いています。今日はその資料は持ってきておりませんが一応自由記載をする部分はございます。</p> <p>これで満足しているかどうかという評価は今のところできないということですね。</p>
久保田係長 (事務局)	<p>はい。</p>
黒田委員(座長)	<p>市内で予約が取れなかった方は統計上減ってきていますが、バースセンターが少し寄与されているのもあるかもしれません。当院もモアバースを開院し、受け皿を広げましたので若干寄与しているのではないかとと思います。</p> <p>それでもまだうちでも安全な範囲で、そして可能な範囲で分娩制限をせざるを得ないという状況が続いておりますので、バースセンターを今後はもっと活用していただきたいと思います。</p> <p>他市町村から比べるとつくば市がこのように出生数を保っている点は良いことだと思います。</p> <p>他市町村からもつくば市で産みたいという方が非常に増えておりますので、つくば市を超えて他市町村のニーズにも答えていく必要があると思います。</p> <p>この統計を見ていると、いずれこのつくば市ですらも出生数が減っていきますので、このバースセンターがあることによって出生数の増加へ寄与していけることも十分考えられると思います。</p> <p>前島先生からご指摘のございました、バースセンター利用した方の満足度等も今後調べていただければと思います。</p> <p>また篠崎委員がこのバースセンターの内覧会にご参加されたそうなので、ご意見をお聞かせください。</p>
市民委員1	<p>市民委員の篠崎です。</p>

	<p>よろしくお願いいたします。</p> <p>昨年バースセンターの内覧会に参加させていただきまして、拝見させていただいたのはナースステーションと LDR 室でしたが、今まで筑波大学でいうと立ち会い出産自体はご主人とかは可能だったかと思いますが、バースセンターでは上のお子さんの立ち会いも可能になったということで、もしかしたら前回バースセンターで産んだ方が今度またリピーターとして、ここで産みたいなって思うような環境の設備になったのかなという印象がありました。あとはお部屋自体が医療職の私から見ても、本当にすてきな照明の使い方や家具の配置でしたので、一般の方はよりここで出産したいと思われるような設備なのではないかという印象受けました。</p>
黒田委員（座長）	<p>確かに写真を見る限り、非常に設備も整った感じですね。もっと周知されてくるとまた違うのかもしれません。</p> <p>間野委員に対しては、市民目線でバースセンターや寄付講座について何かご意見等ございましたらお願いいたします。</p>
市民委員 2	<p>市民委員の間野です。</p> <p>バースセンターの内覧会は私も参加させていただいて、前のバースセンターを知らないのですが、もちろん場所が変わったので、全く新しい感じになったのかなと感じました。また全部屋が個室なので上のお兄ちゃんお姉ちゃんなどご家族みなさんで立ち会えるような形になっていて本当に驚きました。</p> <p>他の病棟とは全く違う形になっていて、今年度に開設され、増床したということみたいなので、これからもしかしたら少しずつ、先ほどおっしゃっていたリピーターさんも出てきそうです。</p> <p>経産婦さんでしたらまたここでとなりそうな気がしますし、そ</p>

のように続けていくことで、また少しずつこちらでの出生数が増えてくるのかなと思いました。

お母さんの立場からですと、同じ値段で同じ出産するなら、こういうところで産めたらと思います。

ただ1つ思うのはバースセンターだと、医師の目も入ると思いますが、基本は助産師さんが対応されるということを知り、何か出産上の問題が出てくると、バースセンターではなく、大学病院に回されるということはやはり変わっていないと思います。そのためバースセンターで産みたくても産めない方も結構いらっしゃるのだらうというお話は聞いています。

また、先ほどバースセンターで産む場合には主体的にお産ができるというお話がありましたが、今妊婦さんで出産を主体的に考えている方ってあまりいらっしゃらないような気が正直しています。とにかく安全に産めればよいというところと、あと人気があるのは無痛分娩です。

自分と赤ちゃんが2人で頑張るお産がしたいという声が少ない気がします。病院を受診する際にバースプランを聞かれて、初めてバースプランを考え始めるというような流れだと聞きます。

やはり共働きの方が多く、生活と仕事でもう本当にいっぱいっばいで、なかなか妊娠をされてすぐ赤ちゃんのことを中心に考えることが難しいという方も増えています。ご出産直前まで働いているという方も聞きますし、あとは生まれてから職場復帰まで非常に早いという話も聞くので、赤ちゃんとお母さんが一緒の時間で赤ちゃんのことを中心に考える時間が非常に短くなっているのかなという危機感を感じることはあります。

長)

逆に医療機関側の目線でバースセンターや寄付講座について何かご意見等ございましたらお願いします。

前島委員

基本的なことを存じ上げておらず申し訳ございませんが、バースセンターの分娩費用はおいくらでしょうか。

一般のところと変わらないのであれば、これだけの施設の中でこれを空けておくことは非常にもったいないという気がしてなりません。もう少し市民にオープンにしてみたいかでしょうか。これだけの設備が整っておりますし、時代的な流れとしてはコロナ禍で立ち会いができなかったという実情もございますので、この状況で立ち会いもできるとなるとリピーターがもっと増え、さらにニーズが高くなるのではないかと思います。使い方や生かし方を考えていくということは、大事だと思います。これだけの施設を揃えていながら使われてないのはとてももったいないことなので、何か術を考えたほうがいいのかというところが1つの印象です。

また、これだけの設備をそろえている状態で、問題点としては合併症がある人達はバースセンターで産めないというところだと思います。そのような方たちは本院の方に戻されてしまうというような話を聞いておりますので、バースセンターとして助産師主導の医療体制にしたいという想いがあるからだと思いますが、せっかくこれだけの施設ですから帝王切開などの処置もそこでもできるような使い方もありだと思います。

寄付講座の方も併せて考えますと、周産期センターとして1つのシステムが出来上がってしまえば、もっと部屋を活用でき、そのための人員を設置するということは今後の大事な考え方なのではないかと思います。

様式第 1 号

本本課長

先生ありがとうございます。

やはり市としましても、つくば市バースセンターを新たに開設し、大変良い施設ですので、PR、いかに皆さんに周知して使っていただくかというところに関しましては、課題の 1 つとして認識をしております。

妊娠届出のときにパンフレットは配ってはおりますが、その段階だともう病院が決まっているという状況もございますので、初めの段階で選んでいただけるような、何か PR 的などころが必要だなどは感じているところでございますので、ご意見を踏まえつつ、市でも、より良い PR 方法を考えていければと思っております。

また、先ほどお話しいただいた寄付講座の件、こちらの方も先ほど間野委員からお話がありましたように、無痛分娩の方に流れていくということはこの後の流れの 1 つなのかなと思います。そうしますとそのバースセンターではなかなか産む数が伸び悩むということも、今後の懸念の 1 つとして、市としては認識をしております。寄付講座で実際に医師が育っていただいて、産科の方で環境が整えられるということであれば、ある程度の寄付講座の意味合いもあると考えておりますので、今後のあり方のバランスということは市でもよく検討していく材料としたいと思っております。

黒田委員（座長）

当院だとモアを開院し、バースセンターと同じような役割を担っておりますが、逆にモアの人気が高まっている状況です。

無痛よりかは自然分娩で生みたいという方が非常に増えてきていますが、無痛分娩を希望する方はある程度しかおらず、モアでの出産規模が増えているのが現状で、断っていることもありま

す。

また、やはり合併症とかハイリスクの方が、10年前よりも俄然多くなっております。

当院で見えても妊婦年齢の高齢化や、体外受精の妊娠の方または合併症がある方が相当いらっしゃいます。

やはりある程度そういう状況を踏まえますと、バースセンターは大学に併設しており、ハイリスクな方も管理していただけるので、大学の中にそういう魅力あるバースセンターもあるということをして市ではアピールしていただきたいです。

また、その中でリスク伴った場合は大学病院でしっかり管理していただけることも非常に大事なので、アピールをしてそのような選択肢が広がっていくと、また患者さんも増えていくのかもしれない。

あと寄付講座も大学の母体の人員との絡みもあると思いますので、そのあたりを引き続き大学の方にも意見を伺って、引き続き協議していきたい項目だと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

今後のバースセンターのあり方や筑波大学との協議の仕方、今回出た意見などを踏まえて、色々協議していけたらと思います。また何か言い忘れたことございましたら、お聞かせください。

前島委員

見学会に行きたかったのですが、私は行けませんでした。写真を見せていただいて、立派なところですよ。1つは宣伝がこれから必要であるということと、ここのバースセンターを運営していくにあたって必要だなと思うのはやはり若い女性達が妊娠を望むというところから始まって、出産の様子や方法、無痛分娩という方法など出産に関する教育ができていないのではないかと思います。

ます。

私がこの会議に来る際に考えていたことは、現在、さほど施設が利用されていないので、空いた時間とスペースを利用して、市民への教育もできるのではないかとということです。

妊娠はいつぐらいからが良いのかということも含め、バースセンターにて助産師さん主導で出産することが可能な妊娠の在り方について、市民の方に認知して頂ける良い機会になると思います。

そういうことから始まり、認知されながら、バースセンターの利用率も上がっていくということも1つの方法なのではないかという気がしてこの会に臨みました。そういう設備や場所があるのかということについては見学会に立ち会っていないため不明ですが、そういうところがあるのであれば助産師さん主導で一般の病院ではそういう大事なことを患者さんにお知らせすることはできませんので、そういうことをやってみるのも良いのではないかと考えています。

市民委員 2

間野です。

今の前島先生のお話聞いて思ったことは、今、小学校中学校高校ぐらいまでだと性教育が民間の力で様々なプログラムが入り、結構盛んになってきているのですが、いざ子どもができたとなつてから、出産の話やその後の育児の話とかを学ぶような機会というのはやはり少ないと思います。学校での家庭科の時間などに少しやられている程度です。いざ自分が妊娠したときに当事者として考えられるのかと言われると、難しいところがあるのかなと思います。

また、先ほどの無痛分娩に関して思い出したのですが、海外と

かの無痛分娩だと、赤ちゃんが出たいぞとなって陣痛が起こり始めたところで、無痛にして分娩に至るという方法を取っていらっしゃる国もあります。

本来赤ちゃんが出たくなってからであれば良いですが、日本の無痛分娩ですと計画的に、促進剤も使って、結構ぎゅうぎゅう押すような感じで赤ちゃんを産ませてしまうところがあるので、赤ちゃん自身が出ていかざるを得ないような出産方法で、結構無理をさせてしまっているのではないかなと思います。

無痛分娩はまだ日本ではそのような考えが多いというお話を聞きました。自分が産んだときは無痛分娩なんてありませんでしたので、学ぶこともないですし、全く知らなかったため無痛分娩のあり方を私も恥ずかしながら知らなかったです。そういうところもまだ確立されていなかったり、危険性であったり、お母さんたちが出産方法を選ぶ際に、正確な情報がちゃんとあるのかどうかというところも非常に大事だと思いました。

そのため仰っていたとおりで、リスクだったり安全面だったりも含めて、やはり正確な情報がわかった上で出産方法を選択できるような機会をつくるのが非常に重要なことなのではないかなと思います。

出産の後悔が残っているとそのあとの育児にも結構影響が出てきている印象がありますので、学ぶことができる機会があると、主体的に育児も始められるのかなと思います。

前島委員

話をさせていただくと、黒田先生がやられていらっしゃると思いますが、腰椎麻酔とかをやる際は、体を丸めて背中から麻酔するため陣痛が始まってからだとその体位が取れなくて医療事故になる可能性もあったりします。陣痛がないときに麻酔を入れる

のは、そういう医学的な適用があります。

そういうことを皆さんご存じでないと思います。麻酔の事故とかも様々なメディアで取り上げられているため、そういうリスクがあるということをやはり皆さんに知ってもらった上で、無痛分娩を選択していただきたいです。周りの方がやられているし、痛くないので無痛分娩が良いという安易な発想で選択してしまうことはこれからの時代はよくないと思います。産むのは1人か2人だとすると、やはりそういうことがあることを計算した上で選択していくといったリテラシーが必要なのではないかと思います。この機会にバースセンターでそういったことを学ぶ機会をつくっていただけると、これから若い方たちが妊娠を迎えるにあたってよいことだと思います。高齢出産でもいいとなりますと、ハイリスクグループになって当然バースセンター産めないわけです。そういうことを論理的にきちんと説明するということが国、市など行政かもしれないですし、大学の役目かもしれないですが、そういった施設があると良いだろうという意味で、先ほどお話しさせていただきました。そのためそういった情報を市民へ提供していくというのは、つくば市としてやりがいがある仕事なのではないかという気がしますが、いかがでしょうか。

黒田委員（座長）

あと無痛分娩について補足させていただくと、当院は無理やり出すわけではなく、陣痛がきてから無痛にして分娩をされる患者様がほとんどです。

ご家族が遠方の方や上のお子さんがいらっしゃるとかで、闇雲にもう妊娠されたら「あなたはこの日が予定日だから、ここで産めますよ。」という形ではなく、経過の10か月をみて行きますので、予定日を超えての計画無痛の方も多いですし、また血

圧が上がってきてしまった方につきましては、逆に早めに出産していただくというような形で、患者様のニーズに合わせて決まっているわけではなく、赤ちゃんが出ることを最優先しないといけないのです。

また、どうしても無痛にすると促進剤を使わないと分娩が長引きます。促進剤を使わなくて普通に経産婦さんで無痛にして産まれる方も多いです。

さらに、これから東京都が無痛分娩に補助を出すということで、今は東京都だけですが、おそらく全国に普及すると思います。どこでも誰でも無痛になってしまうと、医療事故って間違いなく起こってしまうと思います。

スタッフの管理や麻酔管理などというところでも問題は生じてきますので、非常に危惧されることではあります。無痛もありますがあくまでも選択肢の1つでして、ずっと無痛が増えていくわけではないです。自然分娩をしたいとかそういう意識の強い方は、当院を希望されているというのも事実です。選択の中の1つであるだけなのです。無痛がないから利用を希望する人が増えないわけではなく、立ち会いができるところで産みたいという患者さんのニーズも今後増えてきますし、バースセンターの周知のことも考えるべきだと思います。しかし大学内にあるというところが、敷居が高いのかもしれないです。

当院よりも立派で綺麗な病棟なので、今後おそらくニーズは増えてくると思います。一方で出生数がつくばも2000を切ってきていますので、当然今後どんどん出生数は減ってくると思います。ニーズはずっとあると思いますが、私たち委員からの意見はほんの数人の意見ですので、広く市民の意見とかも聞いていただ

市民委員 1

いて、事務局としてはバースセンターのあり方や筑波大との協議を今後とも続けていただきたいと思います。良い運営になっていただけるよう頑張ってください。あとまだ言いたいことはございますか。

篠崎です。

実は先日の保健指導で、上の子をバースセンターでご出産をされた方がいらっしゃったので、お話を聞かせていただきました。まず理由として、その方のお姉様がバースセンターでご出産をされて、とてもよかったと話を聞き、私もバースセンターに決めましたとおっしゃっていました。

また、その方はつくば市内の方ではなかったのですが、バースセンターを選ばれたもう一つの理由として、やはり NICU とか GCU とかがある病院なので、安全安心というところで決められたとおっしゃっていました。黒田先生がおっしゃっていたように、もちろん無痛分娩を選択する方もいますし、自分で主体的に産みたいということ体づくりなどをしてバースセンターで産みたいという妊婦さんもいらっしゃると思うので、女性の選択肢というところで、選べる出産施設が増えたのはいいことだなと思います。やはり今不妊治療で妊娠された方や高齢出産の方も増えてきている中で、安全というところもすごく重要視して、出産施設を選ぶ方もいらっしゃいます。このつくば市のバースセンターとしての強みとしては、やはり大学病院に併設されているところもあるのかなと思いますので、PR をしてもう少しお勧めしていただければ、女性の選択肢として今後増えていくのかなという思いもあります。

あともう 1 点、経営のことがわからなくて大変申し訳ないので

様式第1号

	<p>すが、先ほど12床にして、市内で予約を取れなかった方も賄うことができる数にしたということなのですが、イメージとしては12床の床数だと大体年間の分娩件数って、どの程度まで扱えるのでしょうか。</p> <p>多分67名プラス30名プラスアルファの方々が出産しても、バースセンターで賄いきれるのかなと思いますが、つくば市としてはバースセンターの分娩件数として年間どのぐらいを想定して今回バースセンターの設備を整えられたのかをご教示いただければと思います。</p>
木本課長	<p>数的なところに関しましては、200程度いけると想定はしているところですが、稼働率からいくと、12床あればかなりの数の出産数を想定しています。</p>
黒田委員（座長）	<p>一般の民間でいうと12床×4で48、48×月12でざっと600はいけると思います。</p> <p>民間では病床稼働率を気にすると、マックス600までいくことができると思います。分娩っていつ来るかわかりませんので、決まった日に産めるわけでもないのに、12床あれば下に見積もっても300ぐらいはいくことはできます。</p> <p>ただ、同じ日に自然分娩で5人、6人お生まれになることはざらにありますので、そういったことも諸々含めるとわかりませんが、経営的な面ではそんな感じですが、民間からすれば、その病床数はうらやましい限りです。</p>
木本課長	<p>そういうところも踏まえつつ、200程度は賄えるとは想定しております。</p>
市民委員2	<p>間野です。</p> <p>今日だけで無痛分娩のお話が学びになって、無痛分娩の状況等</p>

が分かり、非常にありがたかったです。

若いお母さんからよく無痛分娩について聞かれたりするのですが、聞かれてもわからないこともありました。これからもし聞かれたときには、その辺りのお話とかきちんと話せたらいいなと思いました。妊娠出産のそういった情報をどこかで学べるような、そういう機会を、例えばこの寄付講座とかそういうところで担ってもらえたら良いと思います。

あと、今は本当に若い方は皆さん SNS が盛んですので、このバースセンターのPRとかもネット上でできれば良いと思いました。

また、PR だけじゃなく、学びの機会を作ることも大事だと思います。生まれてから不安になってしまう方もよくいらっしゃるので、そういうところも行政としてフォローしていただけると、若いお父さんお母さんは安心なのかなと思いました。ありがとうございました。

黒田委員（座
長）

補足ですが、市民公開講座というものが筑波大学にあります。

私も担当したことがあります。年に何回か実施されており、婦人科の講座であれば、筑波大学病院の産科の方がやられております。その講座にご参加していただける人数には限界があり、まだ広く知れ渡っておりませんがそういう活動もされているということは報告しておきます。

バースセンターの目的は安全にお産をすることであるということが一番です。ですが日本の産科医療は優秀なので、母体死亡率も少ないですし、胎児の問題も少ないので、バースセンターの裏にある目的とは、行政としては少子高齢化の人口増加だと思います。そのための1つとしてバースセンターがあり、それに繋がるための教育を行うことで、安全に、どの時期に妊娠出産をする

木本課長	<p>のが良いのかといった自分の希望する人生を選択することができますと思います。</p> <p>先生ありがとうございます。</p> <p>バースセンターのあり方の1つとして、そういったところの視点も入れつつ、今後のより良い運営を筑波大学と協議しながら続けていきたいと思っております。</p>
黒田委員（座長）	<p>活発な意見があり、時間がいくらあっても足りなそうですが以上のご意見も踏まえ、事務局の方で今後ともバースセンターのより良い運営のほうよろしく願いいたします。</p> <p>これで私の座長の任を解かせていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>5. 閉会</p>
川崎統括保健師	<p>黒田座長、誠にありがとうございました。</p> <p>本日は長時間にわたりまして貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>今後とも引き続きご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>それではこれもちまして、つくば市バースセンターに関する懇話会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。</p>

令和6年度つくば市バースセンターに関する懇話会次第

日 時：令和7年1月29日（水）

午後6時30分から

場 所：つくば市役所2階 防災会議室3

1 開 会

2 報 告

3 議 事

（1）報告

- ① バースセンター再整備について
- ② バースセンターの利用状況について
- ③ 総合周産期医学寄附研究部門（寄附講座）について

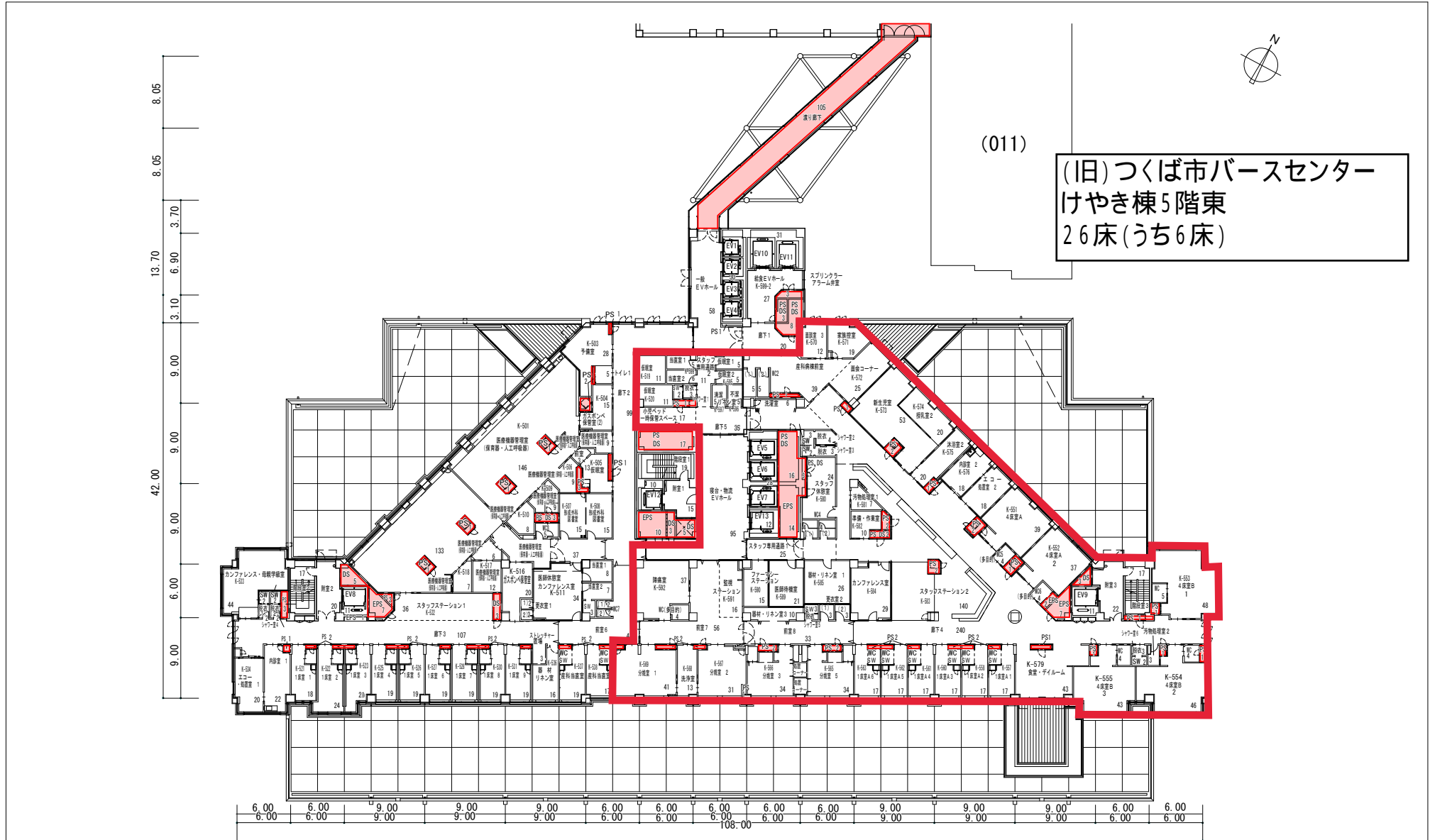
（2）意見交換

4 閉 会

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0408	筑波大学	004	西地区	132



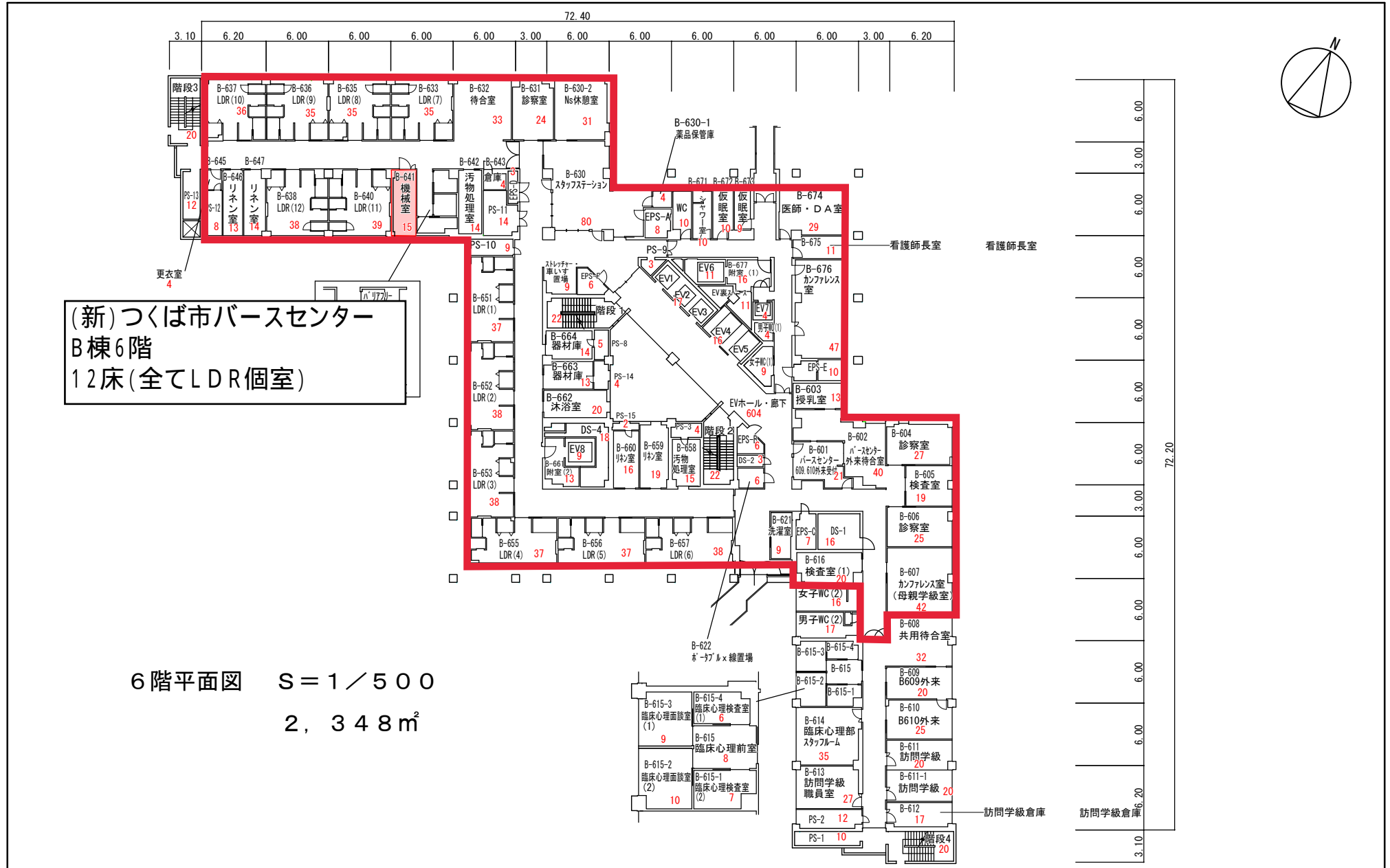
(旧)つくば市バスセンター
 けやき棟5階東
 26床(うち6床)

5階平面図 S=1/600 3,501m²

棟別平面図

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0408	筑波大学	004	西地区	011

国立大学法人等施設実態調査（様式3）





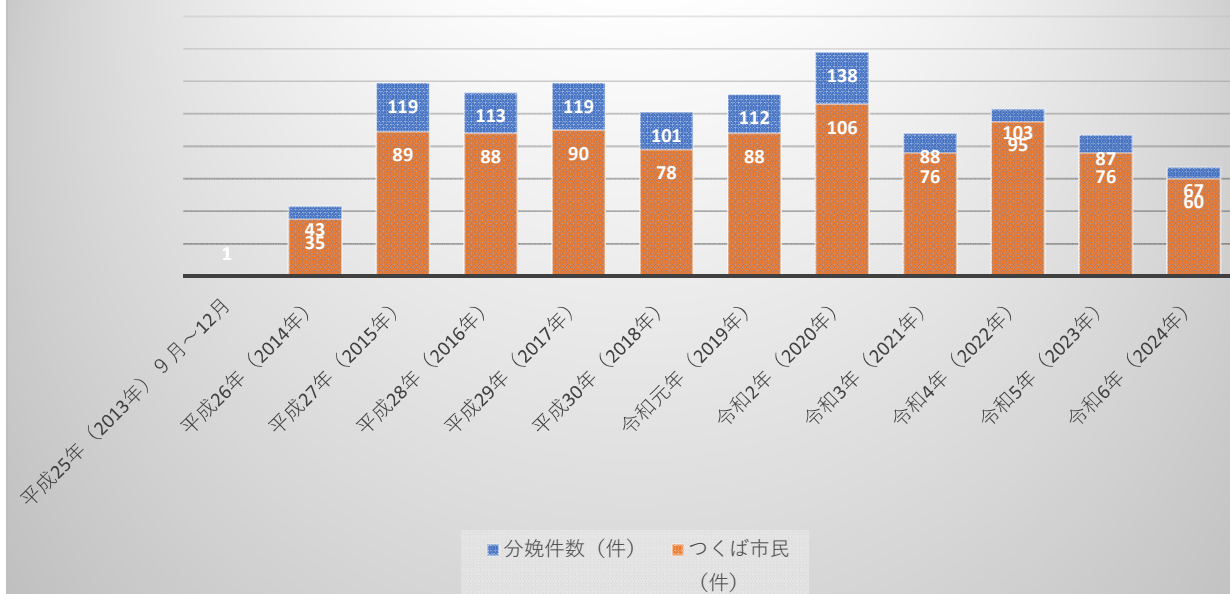
資料2

1 つくば市バースセンターにおける分娩数の推移

*年集計（1月～12月）

年	分娩件数 (件)	つくば市民 (件)	つくば市民 割合 (%)	分娩 累計件数 (件)	つくば市民 累計件数 (件)	つくば市民 累計割合 (%)
平成25年（2013年）9月～12月	1	1	100.0	1	1	100.0
平成26年（2014年）	43	35	81.4	44	36	81.8
平成27年（2015年）	119	89	74.8	163	125	76.7
平成28年（2016年）	113	88	77.9	276	213	77.2
平成29年（2017年）	119	90	75.6	395	303	76.7
平成30年（2018年）	101	78	77.2	496	381	76.8
令和元年（2019年）	112	88	78.6	608	469	77.1
令和2年（2020年）	138	106	76.8	746	575	77.1
令和3年（2021年）	88	76	86.4	834	651	78.1
令和4年（2022年）	103	95	92.2	937	746	79.6
令和5年（2023年）	87	76	87.4	1,024	822	80.3
令和6年（2024年）	67	60	89.6	1,091	882	80.8
1月1日～8月18日	41	36	87.8			
8月19日～12月31日	26	24	92.3			
累計数	1,091	882	80.8			

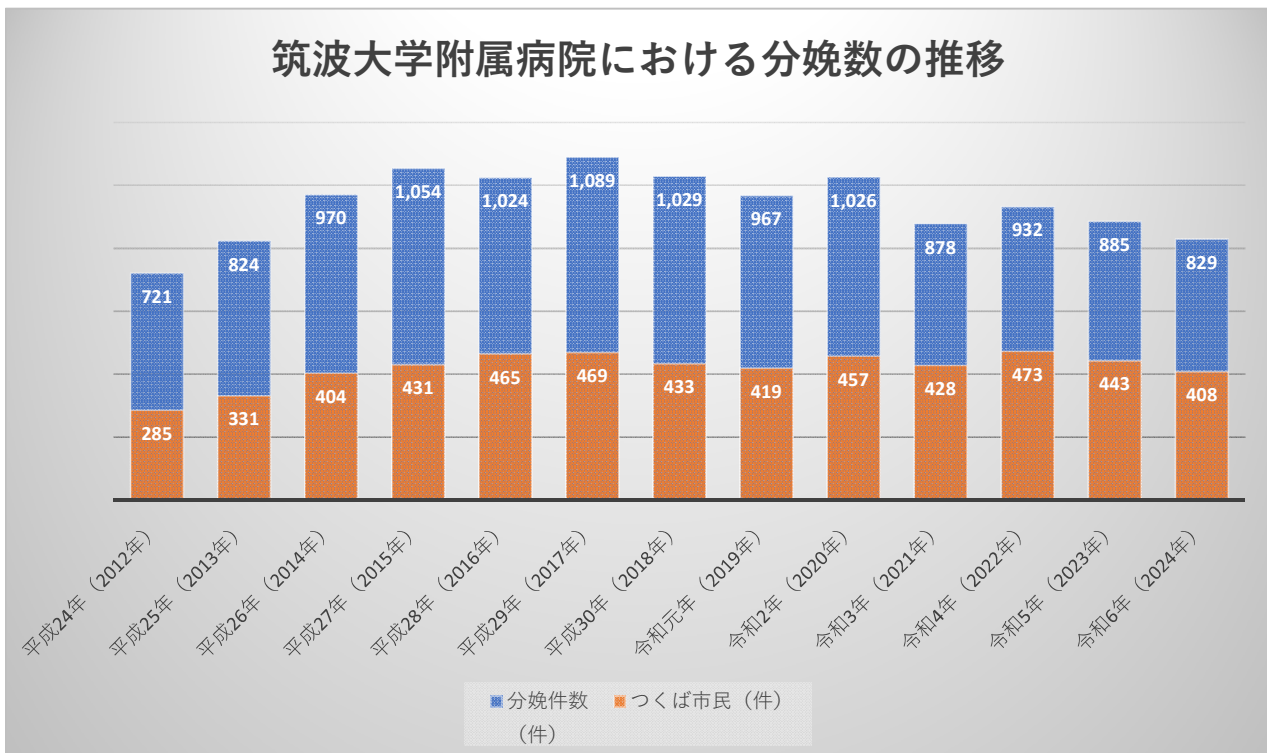
つくば市バースセンターにおける分娩数の推移



2 筑波大学附属病院における分娩数の推移

*年集計（1月～12月）

	分娩件数 (件)	つくば市民 (件)	つくば市民 割合 (%)
平成24年 (2012年)	721	285	39.5
平成25年 (2013年)	824	331	40.2
平成26年 (2014年)	970	404	41.6
平成27年 (2015年)	1,054	431	40.9
平成28年 (2016年)	1,024	465	45.4
平成29年 (2017年)	1,089	469	43.1
平成30年 (2018年)	1,029	433	42.1
令和元年 (2019年)	967	419	43.3
令和2年 (2020年)	1,026	457	44.5
令和3年 (2021年)	878	428	48.7
令和4年 (2022年)	932	473	50.8
令和5年 (2023年)	885	443	50.1
令和6年 (2024年)	829	408	49.2
累計数	12,228	5,446	44.5



3 産婦人科を専攻する医師及び助産師数

* 年度集計

	医師数 (人)	医師の勤務地内訳 (人)			
		筑波大	市内	県内	県外
平成25年 (2013年)	5	1	2	2	0
平成26年 (2014年)	4	1	1	2	0
平成27年 (2015年)	6	2	2	2	0
平成28年 (2016年)	5	2	1	2	0
平成29年 (2017年)	4	2	0	2	0
平成30年 (2018年)	9	1	1	6	1
令和元年 (2019年)	8	3	1	4	0
令和2年 (2020年)	14	4	2	5	3
令和3年 (2021年)	6	2	2	2	0
令和4年 (2022年)	5	2026年3月後期研修修了予定			
令和5年 (2023年)	6	2027年3月後期研修修了予定			
令和6年 (2024年)	8	2028年3月後期研修修了予定			

< 予定 >

***年度ごとの後期研修修了時の状況の数を計上する**

	助産師 (人)	助産師の勤務地内訳数 (人)			
		筑波大	市内	県内	県外
平成25年 (2013年)	0	0	0	0	0
平成26年 (2014年)	2	2	0	0	0
平成27年 (2015年)	4	2	1	0	1
平成28年 (2016年)	5	2	2	1	0
平成29年 (2017年)	4	2	0	1	1
平成30年 (2018年)	5	2	1	0	2
令和元年 (2019年)	4	3	1	0	0
令和2年 (2020年)	4	3	0	0	1
令和3年 (2021年)	2	1	1	0	0
令和4年 (2022年)	5	4	1	0	0
令和5年 (2023年)	4	2	1	0	1
令和6年 (2024年)	4	2026年3月大学院助産師養成課程修了予定			

※本学に助産師養成課程は無かった

< 予定 >

***年度ごと（大学院修了時）の状況の数を計上**

4 筑波大学附属病院産婦人科でのハイリスク妊産婦への対応

(1) 精神疾患既往もしくは合併妊婦分娩数 年間115名 (2024年実績)

上記ケース全例について、週1回の産科医師、精神科医師、助産師、ソーシャルワーカーによるミーティングを実施し、情報の共有、医学的管理方針の決定を行っている。

※うちつくば市民の支援数 年間39名 (2024年実績：つくば市に里帰りしてきた者を除く)

(2) 経済的に問題のある妊婦 年間約30名分娩 (2024年実績)

早期からソーシャルワーカーが関与している。

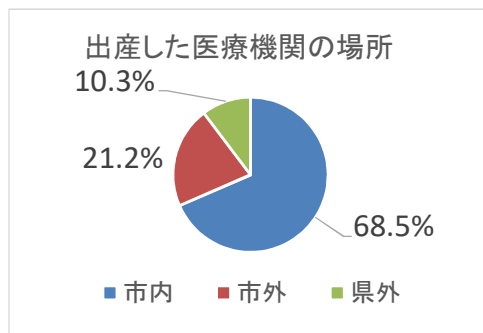
※うちつくば市民の支援数 年間約10名 (2024年実績：つくば市に里帰りしてきた者を除く)

(令和5年度)あかちゃん訪問調査時における市民の出産場所等に関するアンケート調査

- 1 調査の目的 本調査は、市民の出産場所に関する状況把握のため実施
- 2 調査期間 令和5年(2023年)4月1日～令和6年(2024年)3月31日(12ヶ月分)
- 3 調査対象 市内に住所を有する、概ね生後4ヶ月未満の赤ちゃんを持つ母親
- 4 回収件数 1,764件
- 5 調査方法 いばらき電子申請による電子申請アンケート

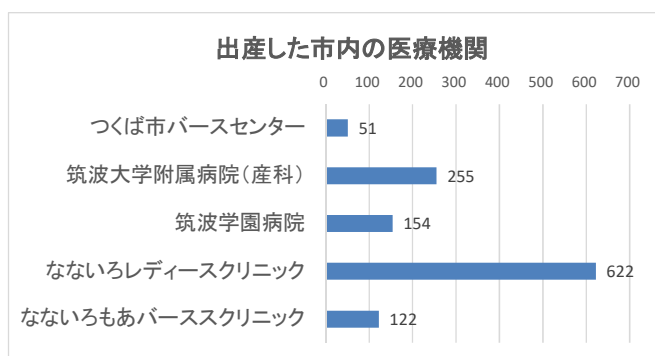
■ 出産した医療機関の場所

	回答(人)	割合
1 市内	1,204	68.5%
2 市外	373	21.2%
3 県外	181	10.3%
合計	1,758	100.0%



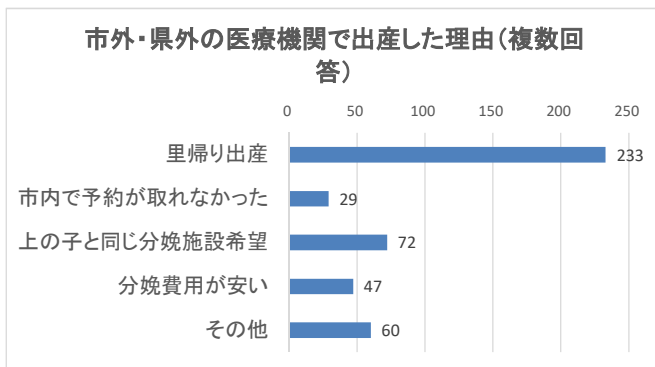
■ 出産した市内の医療機関

	回答(人)	割合
1 つくば市パースセンター	51	4.2%
2 筑波大学附属病院(産科)	255	21.2%
3 筑波学園病院	154	12.8%
4 なないろレディースクリニック	622	51.7%
5 なないろもあパースクリニック	122	10.1%
合計	1,204	100.0%



■ 市外・県外の医療機関で出産した理由(複数回答)

	回答(人)	割合
1 里帰り出産	233	42.1%
2 市内で予約が取れなかった	29	5.2%
3 上の子と同じ分娩施設希望	72	13.0%
4 分娩費用が安い	47	8.5%
5 その他	60	10.8%
合計	554	100.0%



■ 平成26年度～R5年度 市外・県外の医療機関で出産した理由(複数回答)のうち、「市内で予約が取れなかった」の割合

年度	割合
H26年度	15.2%
H27年度	11.7%
H28年度	10.8%
H29年度	8.7%
H30年度	6.6%
R1年度	6.7%
R2年度	9.5%
R3年度	8.7%
R4年度	8.3%
R5年度	5.2%

